

参加型オープンデータで日本を元気にするシンポジウム
～Linked Open Data チャレンジ 2015～

オープンデータから オープンガバメントへ

20150926

奥村裕一

東京大学公共政策大学院

客員教授

かなり低いオープンデータ認知度

- よく知っていると回答したのは、自治体では13.7%(回答団体1750団体中239団体)
- 市民に至ってはわずか回答者の2.6%(1034人中27人)
 - 内閣官房が昨秋に「ガイドライン」策定に関連して行ったインターネット上のアンケート調査より

市民の関心を呼び起こす

➤ 身近なで切実な課題の解決に取り組む

- 生活課題か仕事課題か地域課題か
- 地域は地理的空間概念
- 地理的コミュニティは市民に身近か

➤ 課題の解決にはオープンデータからオープンガバメントへ

- 市民参加型の社会 そのプラットフォームとしての行政

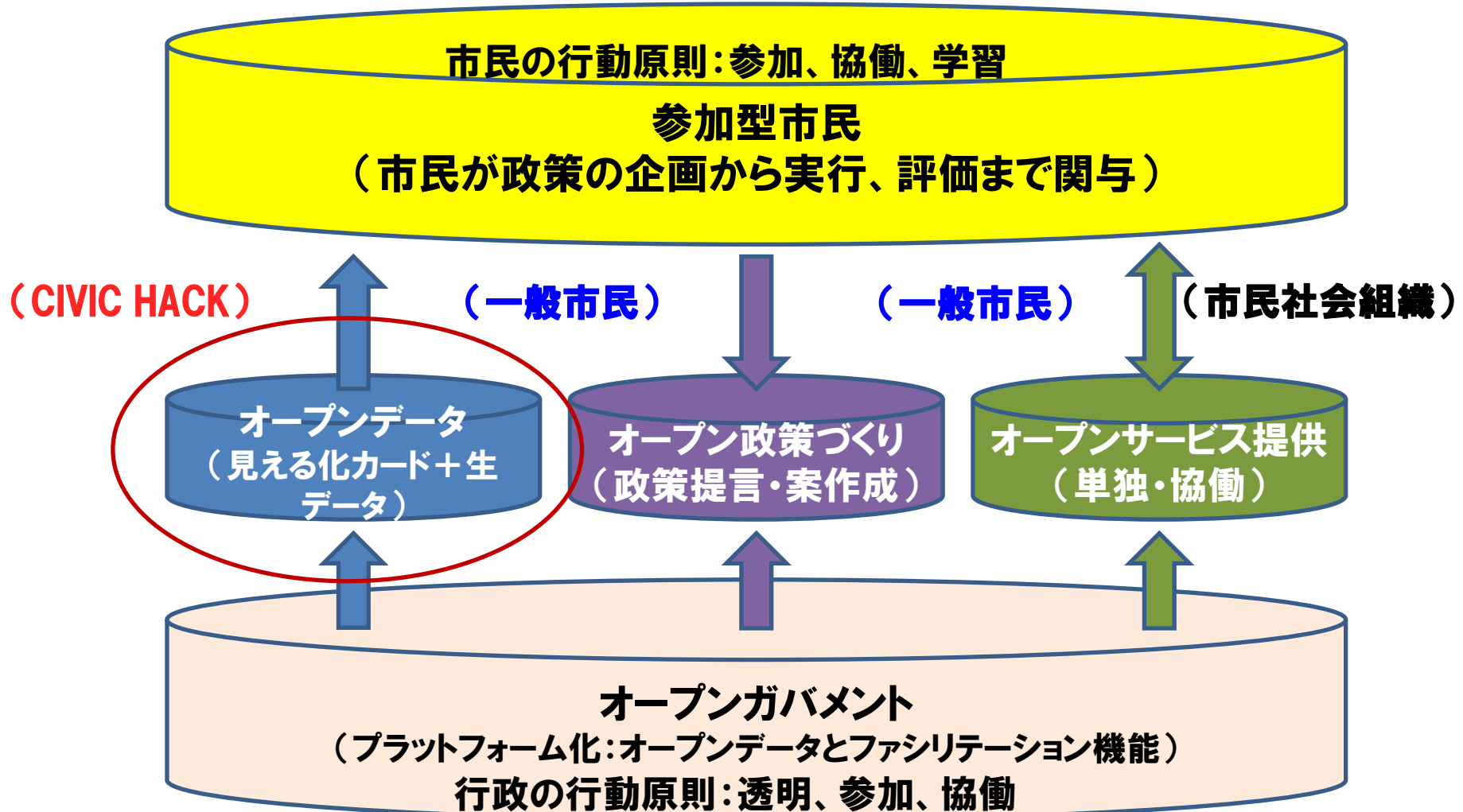
オープンガバメントの本質

- 市民も行政も自ら変わる必要がある
 - 誰かに与えられるものではない

- ① 行政データもオープン
- ② 政策決定過程もオープン
- ③ 執行は市民と行政で分担・協働
⇒ 三拍子そろってオープンガバメント(次世代デモクラシー)

1. 市民は**政策決定過程**の無関心・批判から関与に変わる
2. 行政は**データの社会的共有**と**政策決定過程**のプラットフォームに変容する

市民も変わる 行政も変わる そして社会でオープンガバナンス

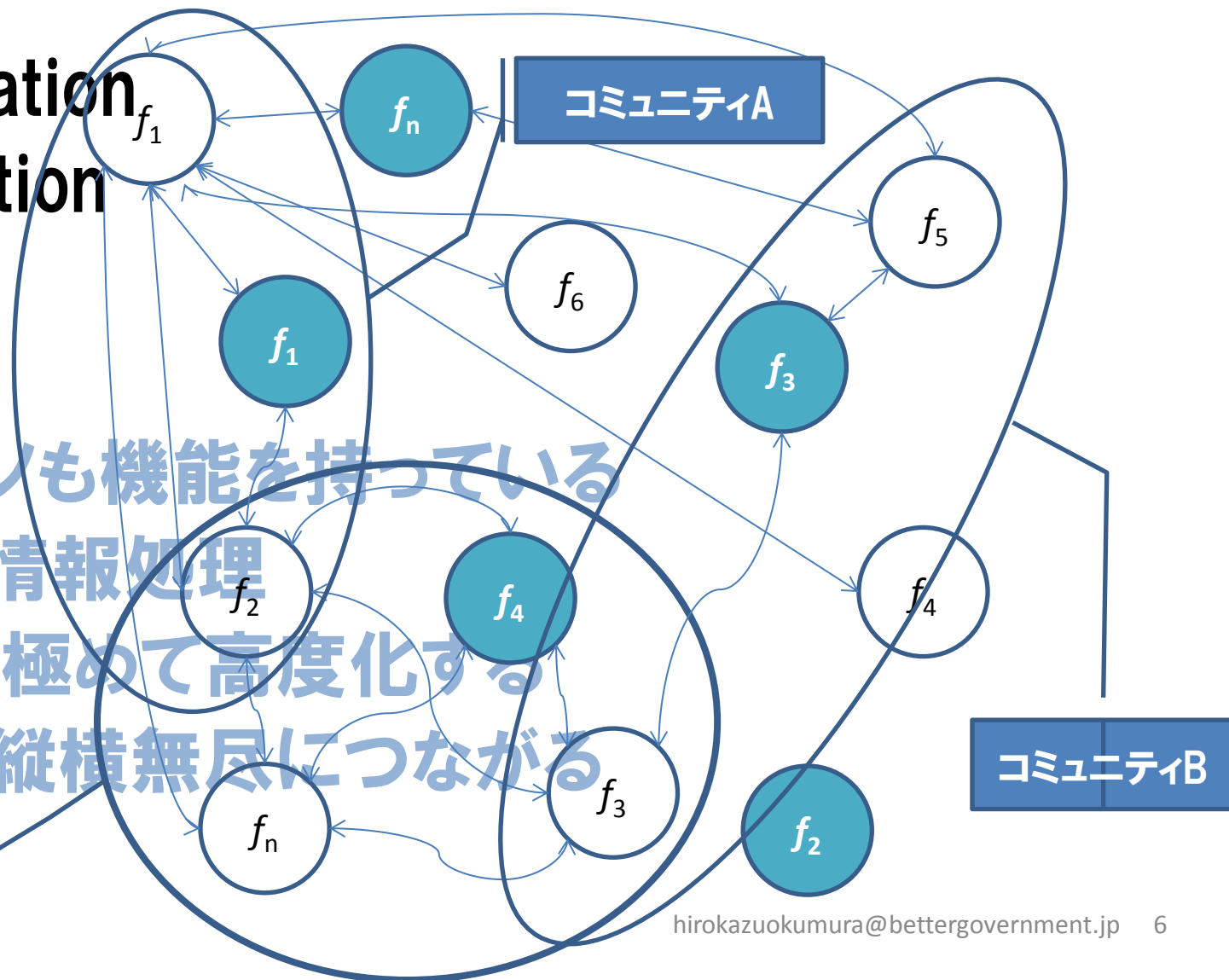


(背景) デジタル社会のアーキテクチャ

Function & Connectivity Oriented Architecture (FCOA)

- Automation
- Simulation

- 人もモノも機能を持っている
- 機能=情報処理
- 機能が極めて高度化する
- それが縦横無尽につながる



行政組織

オープンガバメントのための 三位一体アクション

1. オープンデータ改革をする

✓ 政策見える化カードをつくる

→課題解決に必要なデータを整理して出す

✓ 同時にオープン生(ナマ)データをデフォルトにする

2. 市民参加型政策形成改革をする

✓ オープン政策づくりを進める

→実の会議とオンラインプラットフォームを組合せる

3. 行政デジタルトランスフォーメーションを進める

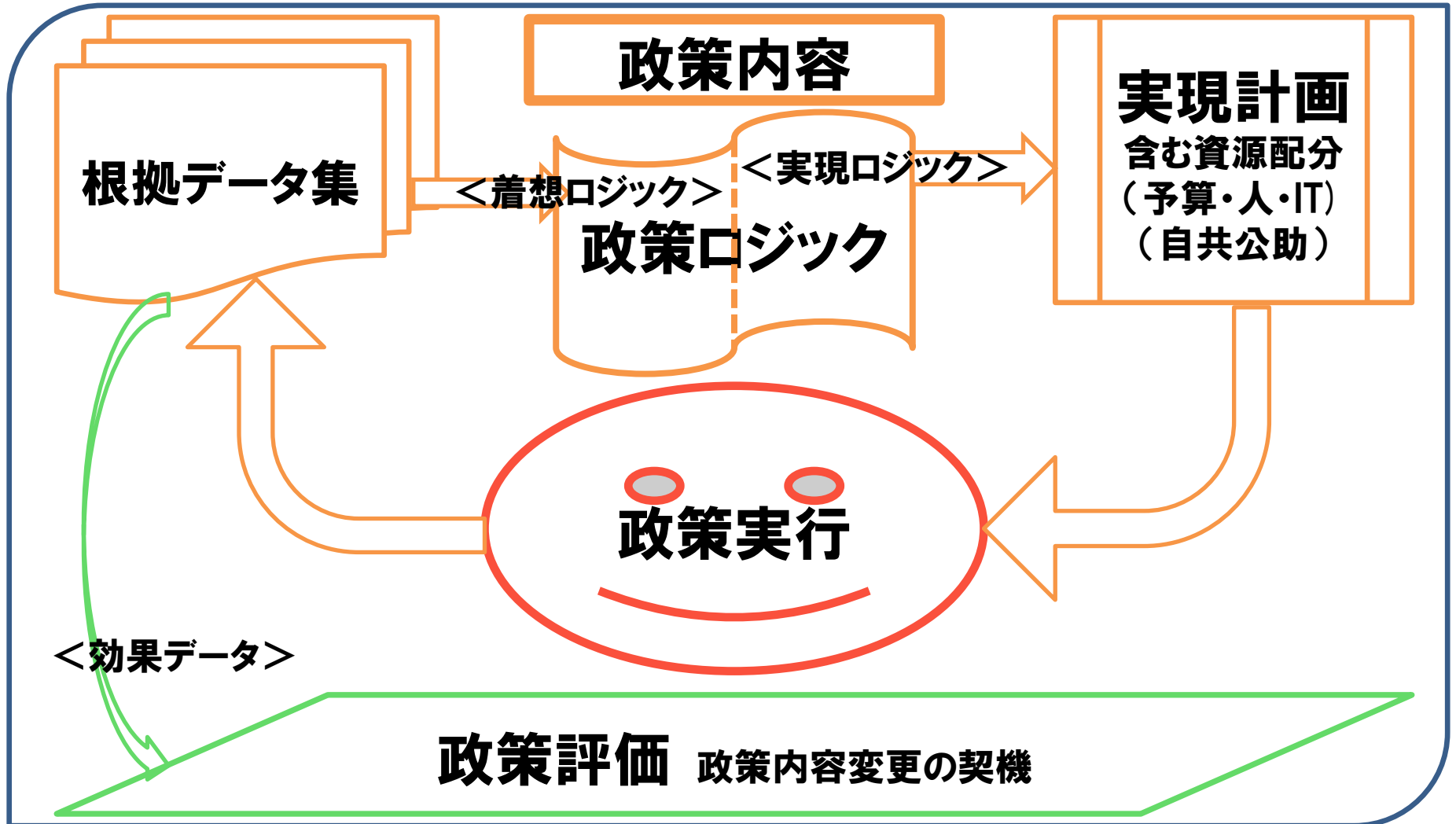
→行政のデジタル化と意識改革を徹底してオープンガバメントのプラットフォームとなる基盤を作る

1. 政策見える化カードを作る

～課題解決のためのオープンデータ

- **政策内容を示す**
- **政策の根拠データを示す**
- **政策(着想と実現)のロジックを示す**
- **政策の実現計画(資源配分を含む)を示す**
- **政策の効果と評価を示す**

政策見える化カード (政策名_____)



オープンデータ 1 & 2

政策見える化カード(既存政策+新政策)
オープンデータ 2

行政版
市民作成版

政策見える化カードの項目
関連データ、政策のロジック、政策内容
予算・体制、実施、評価

見える化サイト
論理ツリー
データ分析アプリ

オープン生データ
オープンデータ 1

オープン生データの特徴
対象網羅性(デフォルトオープン)、機械判読性、再利用可能性

オープンデータ&行政データのプール

政策見える化カードプール(既存政策+新政策)
オープンデータ 2

行政版
市民作成版

政策見える化カードの項目
関連データ、政策のロジック、政策内容
予算・体制、実施、評価

見える化サイト
論理ツリー
データ分析アプリ

オープン生データプール
オープンデータ 1

オープン生データの特質
対象網羅性(デフォルトオープン)、機械判読性、再利用可能性

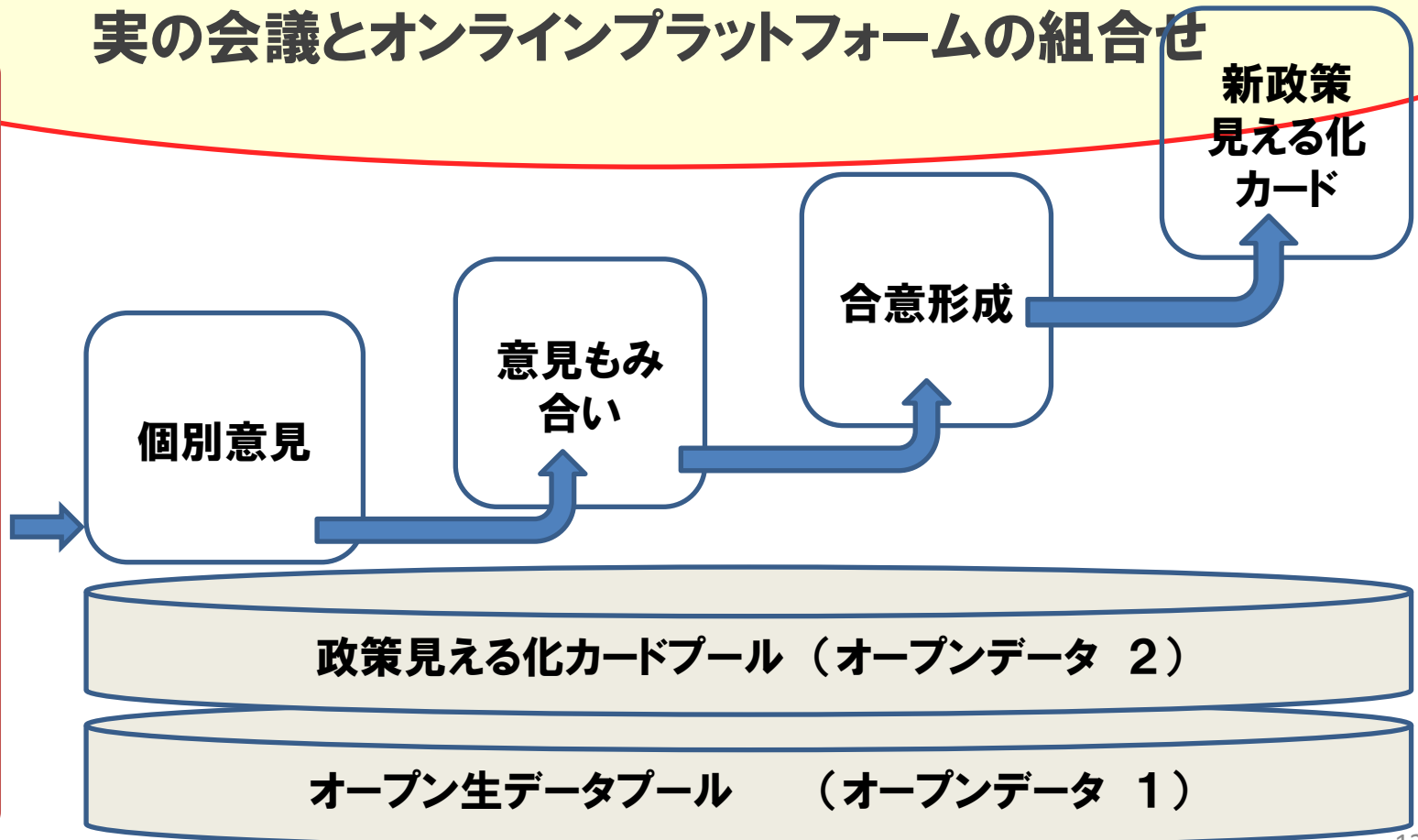
最適化された行政データプール(庁内情報システムの最適化)
(重複整理 庁内共有)

2. オープン政策づくり

～市民参加型の社会課題解決プロセス

実の会議とオンラインプラットフォームの組合せ

社会課題（政策）の提示・発見



オープン政策づくりプロセスの課題

1. 行政側の政策形成との位置づけを明確にする

- 市民の意見を出しても反応がない、取り入れてくれないという不満(パブコメ)
- 市民集団が政策案まで仕上げる
 - ・ 政策見える化データカード作成

2. 市民の学習環境を整える

- 政策見える化データカードの充実
- 複数の専門家の意見を市民が聞く環境を整える
- データを確認し課題を考え解決策を探る科学的態度の学習

3. オンラインツールの限界と意見の社会的公平性への対処

- 集会形式の実の会議とオンラインによる意見交換のハイブリッド
- 意見を述べる市民の選択の課題
- 無作為抽出による会議参加者選択とネット自由参加の組合せ

4. 全体の進行役(ファシリテータ)の存在

- 公平中立な立場でかつ意見を出しやすい雰囲気づくり
- 専門家の訓練(ケーススタディ)
- ネット上の進行の課題

3. 行政デジタルトランスフォーメーション

～オープンガバメントのプラットフォームとなる基盤を作る

➤ **徹底した行政のデジタル化**

- 1. 最適化された行政データプール**
- 2. デジタル分析・シミュレーションの行政活用**
- 3. 庁内情報システムの最適化(サービス主導)**

➤ **徹底した行政の意識改革**

- 1. 市民が主役(政策決定もサービスの受容も)の行政**
- 2. チェレンジこそ改革のタネ**
- 3. 未完成でいい バージョンアップで行こう**

➤ **市民の応援と評価**



人の力の源泉は、、、人と協力して 活動する能力にある。 ハンナ＝アーレント

オープンガバメントで、民主政にどのような新しい
魅力が生まれるのか、文化的制度的障壁を乗り越
越えて、テクノロジーを飼い慣らしつつ、私たちは
「人と協力して活動する能力」に磨きをかける模
索を続けなければならない。

[奥村裕一著「オバマのオープンガバメントの意味するもの」、
季刊政策・経営研究2010Vol.4 三菱UFJリサーチ&コンサルティング](#) より加筆修正

内閣官房行革本部

「国と行政のあり方懇談会」(2013-14)

希望の17ヶ条から筆者抜粋

市民

- 9. 一人ひとりがリスクを自覚
- 12. 社会課題の解決に参加
- 14. 社会の要請と自分たちがやりたいことを重ねる
- 15. システムやデザインの工夫で社会課題を解決

行政

- 4. 「永遠のβ版」的発想を導入
- 6. オープンかつ科学的に政策をデザイン
- 7. 霞ヶ関にチェンジメーカーを増やそう
- 10. 行政が考える機会を奪っていないか